平成２３年６月１４日

報道関係者各位

株式会社 共立総合研究所

「2011年度 新入社員の意識調査(職業観)」

株式会社 共立総合研究所（岐阜県大垣市郭町 2-25 取締役社長 森秀嗣）は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご紹介致します。

≪要約≫

職業観について

今年度の新入社員像：職場は手堅く選択、人間関係重視！

■ 就職先の選択基準
「業種・事業内容」を重視する傾向が更に強まる

■ 将来就きたい地位
男女ともに「管理職志向」強まる

■ 上司・先輩との人間関係
「積極派」が「ほどほど派」を上回る

■ 入社の際の不安
男性は「業務知識・業務内容」、女性は「上司・先輩との人間関係」

■ 初給与の使い道
今年度も「家族に感謝」がトップ

発表場所：名古屋金融記者クラブ、資料配布：大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所　調査部（研究員）　纐纈（こうけつ）　光元（みつもと）　TEL　0584-74-2615】

調査概要

当社では、大垣共立銀行が行っているお取引先企業の新入社員に対する研修会において、「新入社員の意識調査」を毎年行っています。16 回目となった今年の調査でも、例年と同じく「就職する際の選択基準」や「将来就きたい地位」等の質問を行いました。

(1)調査対象：岐阜・愛知・三重・滋賀県所在の企業 304 社の新入社員

(2)調査時期：2011 年 3 月 18 日～4 月 7 日

(3)調査方法：大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,188 名)に無記名方式で実施

(4)回答者数：1,101 人（有効回答率 92.7%）

(5)回答者属性：

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,101名	598名	503名
平均年齢		21.1歳	21.4歳	20.8歳
最終学歴	高校卒業	33.3%	30.4%	36.7%
	専門学校卒業	6.8%	6.4%	7.4%
	短期大学卒業	5.7%	1.7%	10.6%
	四年制大学卒業	50.5%	56.3%	43.6%
	その他	3.6%	5.2%	1.8%
居住地	岐阜県	55.9%	55.9%	55.8%
	愛知県	35.2%	33.8%	36.8%
	三重県	1.6%	2.0%	1.0%
	滋賀県	2.6%	3.4%	1.6%
	その他	4.9%	4.9%	4.8%
業種	建設業	6.7%	7.5%	5.7%
	製造業	47.1%	54.7%	38.0%
	卸売業，小売業	15.5%	12.3%	19.1%
	サービス業	7.7%	6.5%	9.1%
	その他	23.0%	19.0%	28.1%

「職業観について」

（１） 就職先の選択基準

～「業種・事業内容」を重視する傾向更に強まる～

「入社を決めるにあたって何を重視しましたか（3 つまで選択）」と尋ねたところ、1 位は「業種・事業内容」（回答率 67.5%）、2 位は「雰囲気・イメージ」（同 46.6%）、3 位は「通勤時間」（同 28.2%）となった（図表１）。上位 3 項目は 1996 年の調査開始以来、常に重視されているが、**「業種・事業内容」を重視する傾向が年々強まっているのに対し、「通勤時間」と回答する人の割合は近年低下し続けている**。

図表１：就職先の選択基準

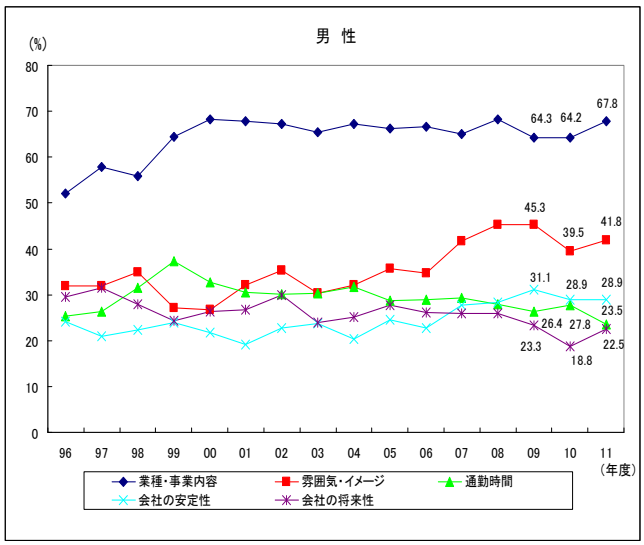
【全　　体】

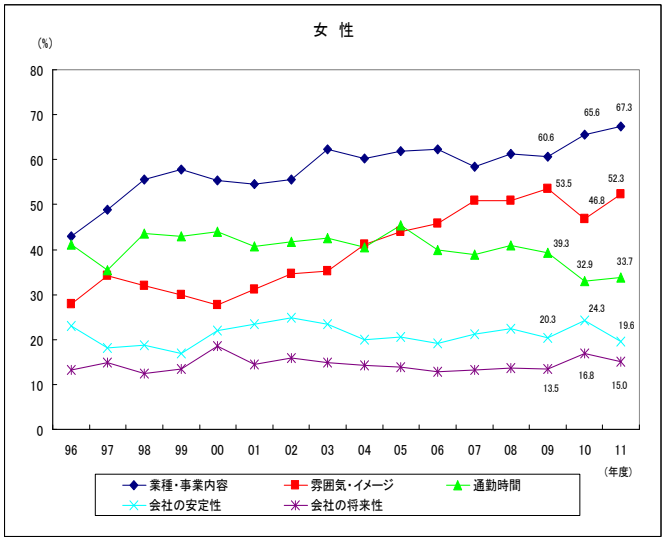
（単位：%）

全　体	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	前年比
業種・事業内容	46.9	52.8	55.7	60.8	61.3	61.2	61.5	63.8	63.8	64.1	64.5	61.9	65.1	62.5	64.7	67.5	2.8
雰囲気・イメージ	29.6	33.2	33.3	28.7	27.3	31.7	35.0	32.8	36.6	39.7	40.2	46.0	48.0	49.4	42.8	46.6	3.8
通勤時間	34.2	31.5	38.2	40.3	38.8	35.6	35.8	36.4	36.1	37.0	34.3	33.8	34.1	32.7	30.1	28.2	▲1.9
会社の安定性	23.5	19.3	20.3	20.1	21.9	21.3	23.7	23.6	20.2	22.6	21.0	24.7	25.5	25.8	26.7	24.6	▲2.1
会社の将来性	20.4	22.2	19.4	18.3	22.1	20.7	23.1	19.4	19.7	20.9	19.6	19.9	20.1	18.5	17.9	19.1	1.2
休日・勤務時間	22.1	20.2	19.6	21.7	19.0	21.0	20.1	21.0	20.4	19.9	23.8	23.3	22.4	24.3	19.8	18.6	▲1.2
親または学校の推薦	24.4	24.3	25.3	20.3	21.0	22.1	19.6	20.0	17.7	16.5	17.6	16.4	15.0	12.8	14.9	13.9	▲1.0
給与・ボーナス	15.3	12.5	11.0	9.4	9.5	11.7	11.3	13.9	14.4	10.7	11.8	12.3	12.8	12.1	10.5	11.9	1.4
会社の規模	6.8	7.7	6.4	6.7	7.5	6.8	5.9	7.1	7.3	7.1	8.2	9.5	8.2	7.1	7.1	7.7	0.6
他に就職内定先がなかった	12.5	8.6	9.5	11.1	8.6	7.8	7.1	4.8	6.5	5.0	4.8	4.0	3.3	4.5	7.4	7.5	0.1
福利厚生	1.9	1.6	0.6	2.2	1.5	2.1	3.9	2.5	3.6	3.2	3.3	4.4	4.6	5.7	6.3	6.6	0.3
会社の知名度	3.6	3.7	2.8	2.2	3.3	3.2	2.3	2.3	2.5	3.2	3.9	3.6	3.8	2.5	2.4	2.6	0.2
何となく	8.2	8.5	8.8	9.6	7.5	7.0	5.5	5.5	4.4	5.3	4.5	3.9	2.3	3.4	2.2	2.1	▲0.1
アルバイト先だった	1.0	0.8	2.5	0.7	1.8	1.8	2.3	1.4	1.8	2.6	1.5	1.6	1.0	1.1	1.4	1.5	0.1
その他	3.8	3.6	3.2	3.7	3.6	3.3	4.2	4.7	4.5	2.6	3.0	3.9	3.4	4.0	3.6	3.6	0.0

（注１）網掛けは、各年度において回答率が高かった上位３項目。
（注２）括弧内の数値は昨年度の回答率との差。
（注３）複数回答のため、回答率の合計は100%を超える。

【上位 5 項目の男女別推移】





（２）将来就きたい地位

～ 男女ともに「管理職志向」強まる～

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか（1 つだけ選択）」と尋ねたところ、男性は「肩書きのある社員（以下：管理職志向）」（回答率 43.4%）、女性は「肩書きはなくても、特殊能力・技能のある社員（以下：スペシャリスト志向）」（回答率 58.6%）がトップであった（図表 2）。しかし、女性でも「管理職志向」は徐々に増えており、今回、「肩書きはいらない（以下：一般社員志向）」と同率 2 位（同 15.0%）となった。

「スペシャリスト」としてだけでなく、組織の管理職としてのポジションを求める意識が女性にも強まっていると言えよう。

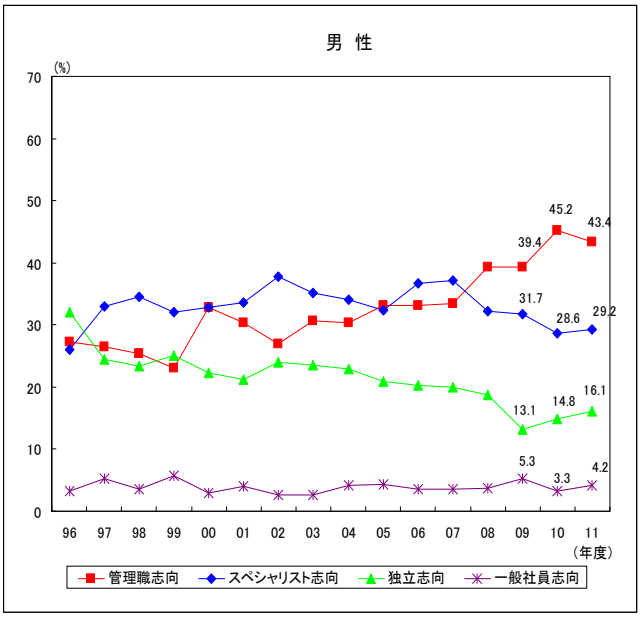
図表 2：将来就きたい地位

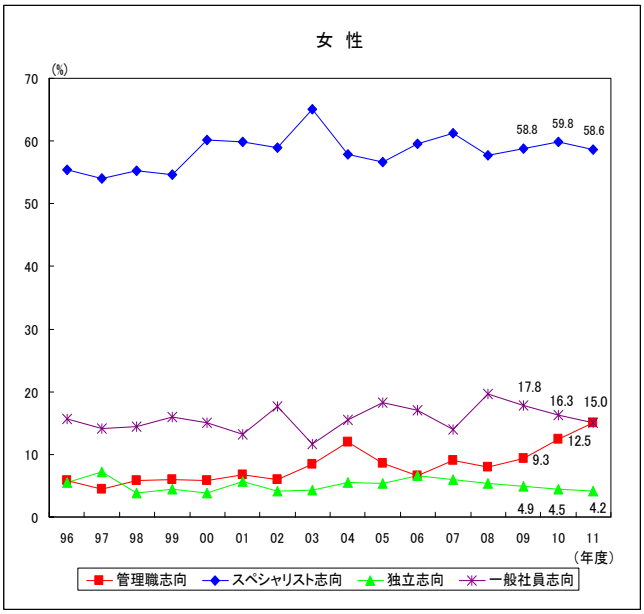
【全　　体】

（単位：%）

全　　体	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	前年比
肩書きはないが、特殊能力・技能のある社員	42.5	44.9	46.0	44.4	47.7	46.7	48.2	50.2	45.9	44.3	47.9	48.5	44.3	45.0	42.7	42.6	▲ 0.1
肩書きのある社員（部長・課長・主任などの管理職）	15.2	14.1	14.5	13.7	18.1	18.6	16.6	19.5	21.2	21.1	20.2	21.8	24.6	24.6	30.4	30.4	0.0
社長、又は独立して自分の会社・店を持つ	17.2	14.6	12.6	13.8	12.2	13.5	14.2	13.8	14.3	13.3	13.6	13.3	12.3	9.0	10.1	10.7	0.6
肩書きはいらない（一般社員）	10.2	10.2	9.7	11.3	9.5	8.7	10.1	7.2	9.8	11.1	10.1	8.5	11.3	11.4	9.2	9.1	▲ 0.1
わからない	13.1	15.1	15.8	15.6	11.4	12.0	9.9	7.4	7.6	9.5	7.7	7.3	7.3	9.3	7.1	6.6	▲ 0.5
その他	1.8	1.1	1.4	1.1	1.1	0.6	1.0	1.9	1.2	0.7	0.5	0.5	0.2	0.7	0.5	0.5	0.0

【上位項目の男女別推移】





（３）上司・先輩との人間関係

～ 「積極派」が「ほどほど派」を上回る～

「上司・先輩との人間関係をどのように考えていますか（1 つだけ選択）」と尋ねたところ、**「公私にわたって積極的に付き合いたい（以下：積極派）」（回答率 50.8%）が 7 年ぶりに「義理をかかない程度に付き合いたい（以下：ほどほど派）」（同 42.9%）を上回った**（図表 3）。

男女別にみると、男性は「積極派」の回答が過去最高（回答率 56.2%）となった。

女性は、依然「ほどほど派」が約 50%を占めているものの、「積極派」の回答がここ数年増えている。

上司・先輩と積極的に人間関係を築いていこうという傾向はここ数年、男女ともに高まっている。

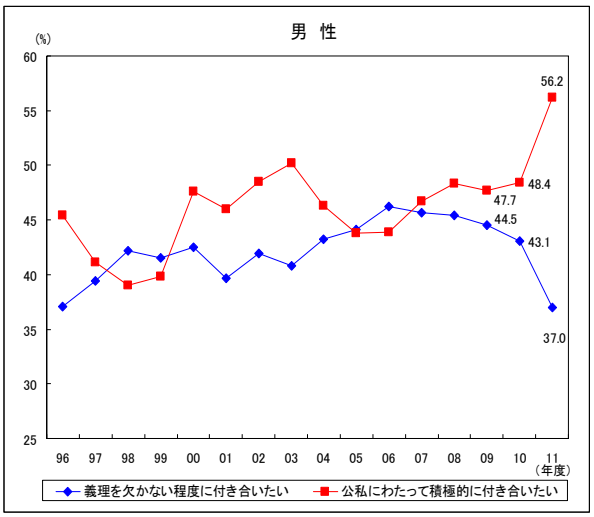
図表 3：上司・先輩との人間関係

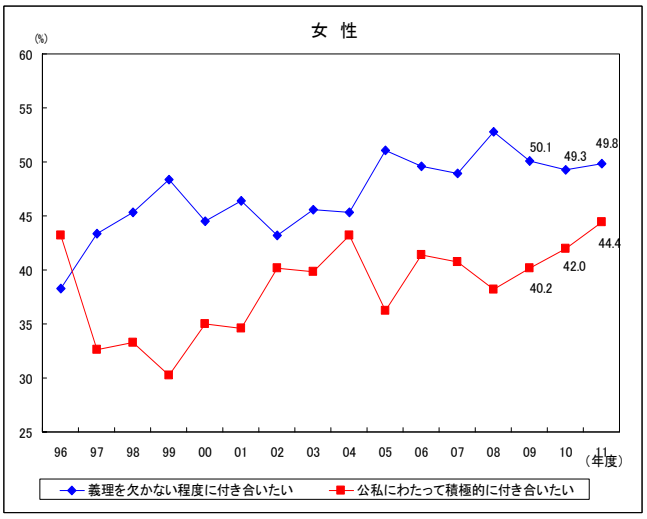
【全　　体】

（単位：%）

全　体	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	前年比
公私にわたって積極的に付き合いたい	44.2	36.4	35.8	34.6	40.7	40.3	44.4	44.9	44.7	40.0	42.7	43.9	43.5	44.0	45.5	50.8	5.3
義理を欠かない程度に付き合いたい	37.8	41.6	43.9	45.3	43.6	43.0	42.5	43.2	44.3	47.5	47.9	47.2	48.9	47.3	45.9	42.9	▲ 3.0
わからない	11.1	14.8	13.2	12.1	9.5	12.0	8.4	6.6	6.8	8.0	5.2	4.8	3.5	4.0	4.2	3.8	▲ 0.4
仕事以外はなるべく付き合いたくない	6.0	6.1	5.8	6.2	5.6	3.7	4.2	4.3	3.3	4.1	4.0	4.0	3.7	4.1	3.8	2.1	▲ 1.7
その他	0.9	1.1	1.3	1.8	0.6	0.9	0.5	0.9	0.9	0.3	0.3	0.2	0.3	0.6	0.5	0.4	▲ 0.1

【積極派・ほどほど派の男女別推移】





（4）入社の際の不安

～男性は「業務知識・業務内容」、女性は「上司・先輩との人間関係」～

「入社にあたって不安に思うことは何ですか（3 つまで選択）」と尋ねたところ、全体では、「業務知識・業務内容」（回答率 59.2%）、「上司・先輩との人間関係」（58.8%）が 1 位、2 位であった（図表 4）。

この 2 つの項目はここ 10 年拮抗しており、今回も同様の結果であった。3 位以下についても 1996 年の調査開始以来ほぼ同様の結果で、新社会人が抱く不安はここ 10 年以上大きな変化は見られない。

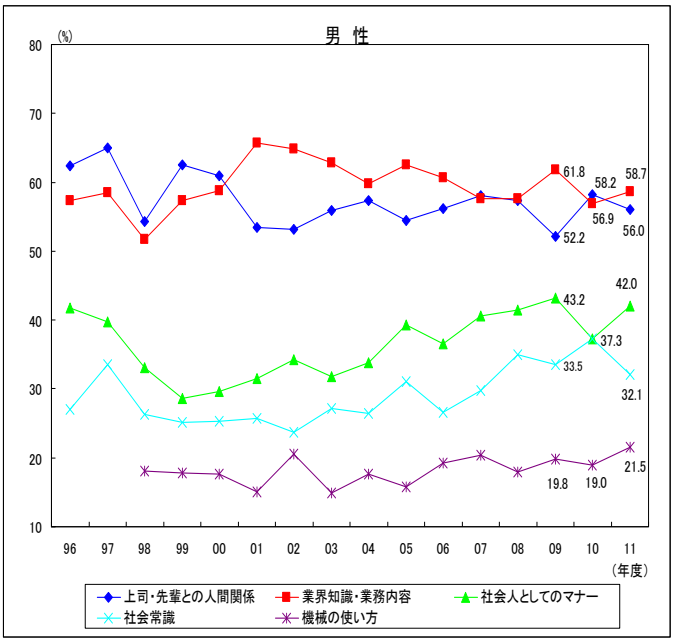
図表 4：入社の際の不安

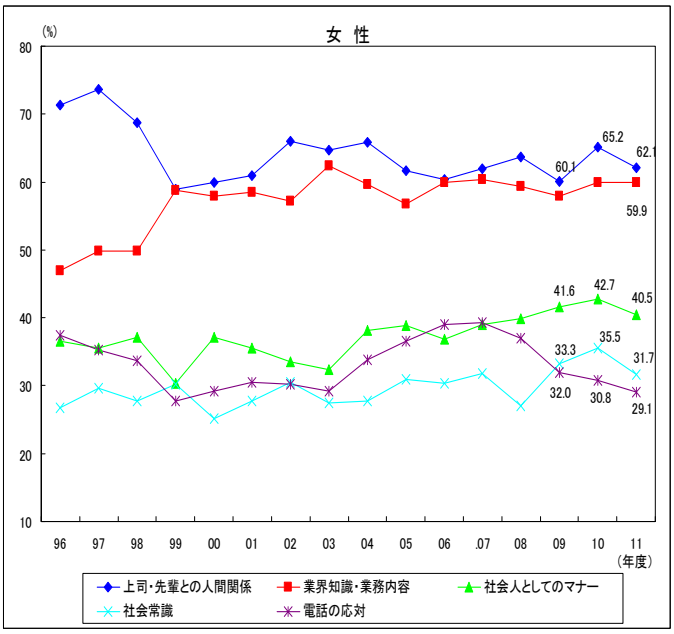
【全　　体】

（単位：%）

全　体	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	前年比
業界知識･業務内容	51.6	53.7	50.7	58.1	58.3	62.1	61.0	62.6	59.7	59.6	60.4	58.9	58.8	59.9	58.2	59.2	1.0
上司･先輩との人間関係	67.5	69.9	62.3	60.5	60.4	57.2	59.5	60.3	61.5	58.0	58.2	59.8	60.7	56.1	61.4	58.8	▲ 2.6
社会人としてのマナー	38.8	37.3	35.3	29.6	33.7	33.5	33.9	32.0	35.9	39.1	36.7	39.9	41.0	42.4	39.8	41.3	1.5
社会常識	26.8	31.3	27.1	27.9	25.3	26.7	27.1	27.3	27.1	31.0	28.5	30.8	31.3	33.4	36.4	31.9	▲ 4.5
電話の応対	25.4	24.3	23.7	19.5	20.1	22.5	22.1	22.3	25.9	28.4	29.3	28.4	29.1	26.4	24.0	22.3	▲ 1.7
規則的な生活	13.7	17.4	14.5	14.4	16.0	16.6	14.6	16.7	13.8	13.2	13.5	13.2	15.5	12.0	14.5	17.2	2.7
機械の使い方	－	－	11.6	12.8	11.9	12.3	15.1	12.2	13.2	12.5	14.1	15.5	13.6	14.5	15.5	15.7	0.2
同僚との人間関係	16.6	15.0	20.0	13.8	13.8	13.6	12.2	11.8	11.5	12.8	15.2	12.3	13.8	13.4	10.3	11.5	1.2
健康	－	－	10.5	15.5	15.1	17.8	17.2	17.8	13.7	11.9	11.2	12.8	10.5	12.0	10.5	8.9	▲ 1.6
OA機器の使い方	9.3	11.0	7.7	10.0	9.5	7.6	7.4	5.4	5.9	5.1	5.6	5.9	4.0	3.8	3.5	3.2	▲ 0.3
その他	2.9	2.4	2.3	2.7	2.3	2.0	1.9	2.2	2.6	1.6	1.7	1.3	1.3	1.4	0.7	2.6	1.9

【男女別上位 5 項目推移】





（５）初給与の使い道

～「家族に感謝」が今年度もトップ～

「初給与は、どのように使いますか（2 つまで選択）」と尋ねたところ、ここ数年同様「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする（以下：家族に感謝）」がトップ（回答率 55.6%）であった（図表 5）。

初給与の使い道として、「家族に感謝」は調査開始以来ほぼ一貫して増えており、今年は第 1 回調査時の約 2 倍となっている。その一方で、「自分の物を買う」、「友達との交際費に使う」は減少の傾向にあり、「預金する」はほとんど変化がない。**「自分の物を買う」、「友達との交際費に使う」といった自分自身の満足よりも、家族など自分の周りの人が喜ぶことによって満足を得るという若者が増えているようだ**。

図表 5：初給与の使い道

（単位：%）

	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度		男性		女性	
家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする	30.3	30.7	39.2	36.7	40.5	38.5	45.6	44.8	45.5	47.9	48.1	49.4	51.4	50.1	57.4	55.6	(▲1.8)	48.2	(▲5.9)	64.3	(2.9)
預金する	49.8	46.2	50.8	51.7	49.0	48.8	45.0	46.1	44.4	47.0	46.6	51.4	49.4	47.3	49.1	45.1	(▲4.0)	39.3	(▲4.4)	51.9	(▲3.5)
自分の物を買う	31.9	31.9	30.9	32.2	31.7	32.3	34.1	35.2	30.6	26.7	28.1	23.2	25.0	20.3	21.6	22.4	(0.8)	25.5	(2.5)	22.0	(▲0.2)
生活費に使う	16.2	20.5	21.2	18.0	17.8	22.3	20.6	21.4	20.8	19.3	23.3	21.6	22.3	23.5	21.2	22.9	(1.7)	22.7	(1.6)	19.8	(0.7)
お世話になった人に贈り物をしたり、食事をごちそうする	15.4	13.4	12.9	13.1	12.3	13.6	14.5	12.4	13.6	14.2	14.9	14.8	14.0	15.8	13.6	15.6	(2.0)	19.5	(5.1)	11.0	(▲1.6)
友達との交際費に使う	14.0	14.0	13.8	12.5	12.0	10.2	9.4	9.7	9.9	11.1	10.5	8.3	8.6	9.3	6.0	7.2	(1.2)	7.7	(1.2)	6.6	(1.1)
考えていない	6.1	6.6	5.9	7.3	8.2	6.7	5.5	5.5	6.1	5.6	3.7	4.8	3.7	5.8	5.8	4.3	(▲1.5)	6.7	(▲0.9)	1.4	(▲2.4)
旅行・レジャーに使う	6.8	5.2	4.7	3.7	2.5	2.4	2.3	2.0	2.8	2.4	2.9	2.5	1.9	2.3	1.3	2.3	(1.0)	1.5	(0.2)	3.2	(1.9)
その他	4.6	4.4	3.4	3.8	2.8	2.4	3.1	2.9	3.1	2.4	1.2	2.3	1.9	1.7	1.5	2.3	(0.8)	2.7	(0.8)	1.8	(0.7)

（注１）網掛けは、各年度において回答率が最も高かった項目。
（注２）括弧内の数値は昨年度の回答率との差。
（注３）複数回答のため、回答率の合計は100%を超える。

（６）小　括

今回の調査では、**家族や周囲の人々を大切にする一方**、超就職氷河期を経て社会人となったことによる影響か、**就職先において上司・先輩との人間関係を積極的に築こうとする新入社員像が浮かび上がった**。

以　上